

サキホコレ研修会



2022年(令和4年)の秋に本格デビューした「サキホコレ」。管内の生産者の9割が初めて栽培する品種です。「あきたこまち」に慣れたベテランの生産者も、その多くの方が1年生です。研修会には多数の生産者が真剣な表情で参加しました。「サキホコレ」と「あきたこまち」の品種特性の差が実感できた年となりました。

本年度の異常気象で納得のできる収量が確保できなかった生産者も多かったと思います。しかし、食味に関連する玄米タンパク質は全量品質基準をクリアしました。また、登熟気温が低かったことから白くて美味しい「サキホコレ」が生産できたと感じています。

横手明峰中学校にて 出前授業を行いました！



5月20日に横手明峰中学校の1年生へ出前授業を行いました。出前授業では、産地、担い手の2つの視点から横手の農業について講話しました。

受講後のアンケートでは、9割以上の生徒から「参考になった」、「理解が深まった」との声を頂きました。

11月21日には総合学習のまとめとして中学生1～3年生による発表会が開かれ、横手の未来を担う生徒の視点での報告がありました。

インボイス制度への対応を早めに話し合いましょう！



令和5年10月から消費税のインボイス制度（適格請求書等保存方式）が始まります。

集落営農法人については、免税事業者である構成員に支払う作業委託料や従事分量配当に係る消費税は仕入税額控除が段階的にできなくなり、法人経営に影響を及ぼす可能性があります。

インボイス制度について理解を深めるとともに、今後の対応を構成員の方々と早めに話し合いましょう。

令和5年度 未来農業のフロンティア育成研修生・2次募集

応募要件：研修修了後に県内就農が確実で、かつ申請時の年齢が原則50歳未満の方 等

研修期間：令和5年4月～7年3月(2年間)

応募先：横手市農林部食農推進課 電話：0182-35-2267

申込期限：令和5年1月13日(金)

- ①作物6名(農業試験場作物部3名、生産環境部3名)
- ②花き2名(農業試験場野菜・花き部)
- ③果樹(りんご等)2名(果樹試験場天王分場1名、かづの果樹センター1名)
- ④畜産4名(畜産試験場：肉用牛2名、酪農2名)

その他、詳しくは秋田県農業研修センターのウェブサイトをご覧ください。
<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/13819>



普及だより

No. 145
令和5年1月1日

【編集・発行】平鹿地域振興局農林部農業振興普及課
〒013-8502 横手市旭川1丁目3番41号
電話：0182-32-1805 FAX：0182-33-2352

大区画ほ場におけるすいか生産技術の確立に向け、大きな成果を確認!!



ブラソイラによる排水改善



軽トラックによる果実運搬



100mを超える畝に定植



収穫量に満面の笑顔

県下一位の生産額を誇る平鹿管内のすいか栽培において、近年の作付面積は減少の一途をたどっており、産地としての生産量の確保と、安定生産に向けた栽培技術の確立が課題となっています。

そのため、平鹿農業振興普及課では、基盤整備後の大区画ほ場栽培に着目し、(農)外目ファームのご協力を得て「すいか大規模栽培試験モデルほ場」を設置しました。前年秋季のほ場づくりから、栽培環境制御や労務管理までのデータ収集やサポートを行ってきました。

今後もデータ分析を継続し、大規模すいか栽培の技術確立実現に向けて取り組んでいきます。

課長あいさつ



平鹿地域振興局
農林部農業振興普及課
課長 加藤竹雄

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年管内では、8月の豪雨や9月下旬の台風14号による大きな被害は無く、ほとんどのところですが、6月の低温や8月の雨、日照不足により、農作物の生産量は全体的に令和3年度を下回る結果となりました。また、ウクライナ情勢に掛かる肥料や飼料、農業資材の高騰により生産者の皆様には大変ご苦勞された1年であったと思われます。一方、明るい話題としては県産米新品種「サキホコレ」の本格デビューがあげられます。

さて、県では経営力の高い担い手と新規就農者の確保・育成や持続可能で効率的な生産体制づくり等を柱に食糧供給力の強化に取り組んでいるところです。

職員一同、生産者の皆様が明るい展望を抱けるように努めて参りますので、本年もよろしくお願いいたします。

新型コロナの収束と、天候に恵まれ実りの多い一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

令和4年度の農作物の作柄を振り返って



野菜

6月の低温、8月多雨など気象の影響を大きく受け、平年より収穫量減

すいか



初期生育は順調に進むも、6月1半旬の低温を受け、着果数は減少しました。交配期以降多照により、平年並に果実肥大が進み、高単価も相まって、目標販売額を達成しました。

次年度へ向けて

- 降雨前の予防剤散布を徹底しましょう。
- 普通栽培の換気穴は早く開けないようにしましょう。

きゅうり



定植時(6月下旬)の低温と8月の多雨、日照不足及び強風(9/6)により樹勢の低下や茎葉・果実への損傷が大きく出荷量が伸び悩みました。8月に入り、褐斑病や炭疽病が多発しました。

次年度へ向けて

- 気象変動に対応できる土壌物理性(耕盤破砕、深耕等)の改善を図りましょう。
- 雨よけ、防虫ネット栽培を導入しましょう。

えだまめ



早生、中早生品種は播種時の低温、降雨不足で生育が遅延しましたが、その後、気温が上昇し、平年並に生育しました。中生品種以降は、8月の多雨、日照不足により肥大、登熟が進まず、出荷量は減少しました。

次年度へ向けて

- 気象変動に対応した排水対策(明きょ、弾丸暗きょ等)を実施しましょう。
- 緑肥による地力、センチュウ対策を行いましょう。

アスパラガス



前年の養分転流が確保されたため、春芽の出荷は順調に進みました。夏芽の出荷開始以降は、8月の多雨、日照不足が大きく影響し、出荷量が減少しました。8月に入り茎枯病の発生が増加しました。

次年度へ向けて

- 排水対策、適期防除による茎枯病対策を徹底しましょう。
- 半促成(施設)栽培の導入を図りましょう。

秋田の野菜手取りアップ総合推進事業実証ほ(きゅうり)



きゅうりほ場にてサブソイラによる心土破砕の効果を検証しました。結果として降雨後の排水が早まり、作業性が向上したほか、耕盤破砕により根域が拡大し、初期生育が順調に進み、7月の出荷量が増加するなどの増収効果がみられました。

次年度に向け、自身の土壌物理性を把握し、耕盤破砕等の排水対策を実施しましょう。

3年ぶりにゼミナールフェスティバルが開催されました!



7月9日(土)秋田駅前仲小路にて、ゼミナールフェスティバルが開催されました。ここ数年はコロナ禍のため開催が見送られておりましたが、今年は3年ぶりの開催となりました。

横手ゼミからは会長を始め3名の会員が参加し、会員らが作った野菜や果樹を出品しました。久しぶりの対面での即売会は、会員らを中心に終始賑やかなムードで行われました。

今年度の県連ゼミとして初めての活動となり、各地区のゼミ会員や地域の方々との交流を深めることができました。

東北農村青年会議秋田大会

～県南視察バススクール研修～

11月1日、2日の2日間にわたり、東北農村青年会議秋田大会が開催されました。1日目は成果発表会、2日目は県南、県央、仙北の3地区の視察と種苗交換会視察の4コースのバススクールが開かれ、参加者らは希望するコースを視察しました。

県南コースでは横手ゼミの沼沢成悟会長がコース長として、雄勝ゼミと共に、雄勝、平鹿地区のほ場や調整施設等を案内しました。

管内では平鹿町のさとう果樹園、ゼミ会員の小川智洋さんの(農)大沢ファームの2箇所研修を行いました。

東北各地から来た若手農業者へ横手ゼミ会員の活躍を紹介でき、横手の魅力をPRすることができました。参加者からも多くの喜びの声をいただくことができ、大成功を収めました。



新農業士紹介



柴田康孝さんは、令和3年度に農業法人を設立し、水稻7.7ha、果樹1.6ha等による複合経営に取り組んでいます。

水稻部門は「あきたこまち」と「ちほみのり」を軸として「サキホコレ」の作付にも取り組んでいるほか、JA秋田ふるさと稲作総合部会長やサキホコレ生産者協議会長も務めています。

果樹部門は、消費者ニーズの高い無核大粒種の「シャインマスカット」を導入し収量と品質向上を目指しています。

横手市内外の幅広い農業者からの信頼も厚く、模範的な農業経営を実現する地域のリーダーとしての役割も期待されます。





水稻

作柄はやや不良。適期移植で初期生育の確保を！

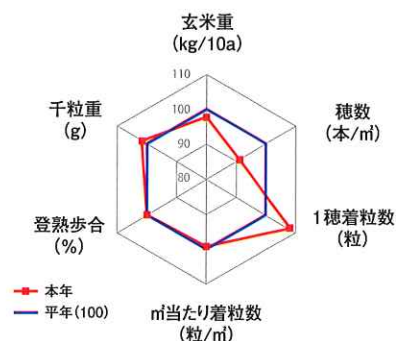
田植え作業の盛期は、平年並の5月24日となりました。田植え後の生育は、6月上旬の低温により活着や分げつの発生が遅れ、㎡当たりの茎数が平年より少なく推移しました。

管内の出穂期は8月3日(平年差1日早)となりました。

出穂後は曇天の日が多く、登熟は緩慢に推移しました。9月に入ると好天が続き、やや乾燥気味のほ場も見られました。また、稈長が平年より長かったため、台風や雨の影響により倒伏も多く見られました。

当課の水稻定点調査(あきたこまち11か所平均)では、10a当たりの玄米重(調整篩1.90mm)は559kg(平年比98%)となりました。

ほ場によっては斑点米カメムシ類による着色粒が多くなっており、2等以下格落ち理由の大部分を占めています。



次年度へ向けて

- 初期生育の確保と生育・栄養診断により安定収量の確保に努めましょう。
- 生育に合わせた水管理(異常還元時の落水、適期中干し、登熟促進のための水管理等)に努めましょう。
- 水田内外の適切な雑草管理により斑点米カメムシ類による着色粒を発生させないように努めましょう。



花き

7月の不順天候にもかかわらず良品質な花き生産

露地キク

盆出荷は7月中旬の連日降雨と日照不足で花芽の発達が抑えられ、中段のわき芽発生や柳芽となり開花が遅れました。

また、彼岸出荷は8月の豪雨により根傷みで草丈が抑制されました。



次年度へ向けて

- 近年の温暖化で7～8月の降雨量が多くなり、数日で100mmを超えるときが見られます。明渠の施工はもとより、モミガラ暗渠やサブソイラー等によるほ場排水が極めて重要となっています。

「NAMAHAJE」ダリア

県が商標登録している切り花です。5～6月に定植し、8月下旬から10月中旬までの出荷となりました。

キク科の植物で降雨による湿害を受けました。品種試作や刈込仕立法による単収向上を行いました。



次年度へ向けて

- 国内花き市場でダリアの取扱いは多くなっています。品種改良や栽培技術が急速に進んだことから単収や日持ち性が高まり、魅力ある品目に成長しています。栽培に取り組んでみませんか。

④普及だより



果樹

極端な天候に高品質安定生産が揺らいだ1年

りんご



果実肥大は良好で収量は前年より3割前後増加しました。8月の大雨、日照不足、暖かい秋のため、着色に苦勞し、酸が少なく、糖度はやや低く、果肉はやや軟らかめとなりました。

次年度へ向けて

- 暖かい秋に備え、着色に苦勞した「ふじ」の系統を優良着色系統に更新しましょう。

ぶどう



中粒種は開花期の天候不順から、ばら房となり減収となりました。

大粒種は8月の大雨、日照不足から裂果が発生し、更に糖度の上昇が緩慢となり、収穫が遅れました。

次年度へ向けて

- 「シャインマスカット」のうどんこ病は広域的に発生しているので、適切な防除に努めましょう。

もも



早生・中生種は肥大、品質ともに良好で収穫を終えました。一方、晩生種は8月中旬以降の降雨、低温、日照不足から糖度はやや低くなり、灰星病の発生が多くなりました。

次年度へ向けて

- せん孔細菌病が増加傾向にあることから適切な防除に努めましょう。

おうとう



開花直前から開花期に低温、降雨、強風と厳しい受粉環境から減収となりました。一方、6月中旬以降気温が高く、成熟が急激に進み、収穫が間に合わない状況になりました。

次年度へ向けて

- 遅霜や開花期間中の低温に備え、燃焼資材や人工受粉の準備を確実に進めましょう。



畜産

耕畜連携に向けた取組が進められています

6月21日に、管内の畜産農家・耕種農家・関係機関を対象とし、コントラクター事業に関する研修会が開催されました。

研修会では、「耕畜連携で安定経営」をテーマとし、山形県米沢市のコントラクター組織の事例をもとに、自給飼料生産体制や堆肥の資源循環体制を学びました。

研修会後は、畜産農家と耕種農家との間で活発な質疑応答・意見交換が行われたほか、実際のほ場の視察も行い、管内の耕畜連携の今後に繋がる有意義な1日となりました。

